



## 並木杉の倒木時等調査票

覚知年月日時		令和 年 月 日( ) 午前/午後 時 分		受信者氏名:	
情報源		← ← ←			
東照宮覚知年月日・時間		令和 年 月 日( ) 午前/午後 時 分			
倒木等した木の状況	倒木等年月日・時間	令和 年 月 日( ) 午前/午後 時		不明	
	街道名	日光・例幣使・会津西		地点(大字)名	
	指定番号	L・R	(~L・Rの間)	オーナー杉の有無等	有・無 ↓オーナー名
	その他特記事項				
倒木等の状況	状況	根返・幹折・枝折・その他( )			
	損壊部分の地上高(m)		損壊部分の直径(m)		
	損壊部分の状態	異常なし・空洞・腐朽・その他( )			
	倒木等の方向	北・北東・東・南東・南・南西・西・北西 (並木敷内・街道内・後背地( ))			
倒木等の(推定)原因		台風( 号)・(台風以外の)強風・雪・落雷・腐朽・雨・その他( )			
倒木等による被害状況		特になし・その他( )			
倒木等後の措置状況	方針	除去伐採・バンド等による固定・現状維持・その他( )			
	伐採年月日	令和 年 月 日( )			
	伐採時の根元の状況	異常なし・空洞・腐朽・その他( )			
倒木等時の気象情報の発令状況		特別警報( )・警報( )・注意報( )・発令なし			
今市気象観測所のデータを添付 <a href="http://www.jma.go.jp/jp/amedas_h/map27.html">http://www.jma.go.jp/jp/amedas_h/map27.html</a>					
台帳(データベース)への反映		月 日済	データベース個票を添付		
備考		過去の履歴など			

(参考)

調査年度	樹勢衰退度	危険度
		—

## 日光杉並木街道関係略年表

「日光杉並木街道」(昭和 53 (1978) 年日光東照宮発行)を参考にし、一部追記したもの

西暦	年号	事項
1616	元和 2年	4月17日 徳川家康駿府(静岡)にて死去(享年75才)
1617	3年	日光山に東照社竣工 4月17日 東照社正遷宮
1625	寛永 2年	松平正綱、この頃より日光街道に杉並木の植栽開始
1636	13年	日光東照社の大造替完成 仮御殿廻りに杉500本植栽
1644	正保 1年	この年例幣使街道整備される
1645	2年	東照社に宮号宣下、東照宮となる
1646	3年	東照宮に奉幣使参向(翌年より例幣使、慶応 3年に及ぶ)
1648	慶安 1年	松平正綱没(73才)、正綱の子正信が杉並木寄進碑を建立
1649	2年	日光街道大沢宿に將軍社参の御成御殿建設
1651	4年	4月20日 將軍家光死去(享年48才)
1653	承応 2年	日光山に大猷院廟竣工
1657	明暦 3年	この頃会津西街道整備される
1689	元禄 2年	俳人芭蕉、日光参詣(奥の細道)
1700	元禄13年	幕府、日光奉行を設置
1723	享保 8年	鬼怒川大洪水、大桑の並木寄進碑流失
1736	元文 1年	松平正貞、大桑の並木寄進碑を再建
1762	宝暦12年	幕府、東海道及び日光街道等の並木補植及び保護を行う
1772	安永 1年	幕府、日光街道等五街道の並木補植及び保護を行う
1790	寛政 2年	幕府、日光街道等五街道の並木保護を行う
1816	文化13年	東照宮奥社に杉苗を植栽
1823	文政 6年	幕府、日光・奥州街道の並木保護を行う
1836	天保 7年	幕府、日光・奥州街道の並木補植及び保護を行う
1842	13年	幕府、日光街道等五街道の並木保護を行う
1864	元治 1年	大桑の並木寄進碑3回目の建立 今市で杉線香を作り始める
1867	慶応 3年	將軍慶喜、大政を奉還
1868	明治 1年	日光野口十字字において旧幕府軍と官軍とが交戦 日光領が真岡県知事の管下に置かれ、並木は国有になる
1890	23年	国鉄日光線開通
1900	33年	東照宮、内務大臣宛に「杉並木下戻し」の申請書を提出
1905	38年	日光街道の杉並木が東照宮に下げ戻される
1915	大正 4年	東照宮300年祭記念事業として日光街道へ杉苗等約6千本の補植実施、大正15年終了
1922	11年	3月8日「日光並木街道附並木寄進碑」が史蹟に指定される 11月7日 栃木県が日光並木街道の管理者となる
1924	13年	日光・今市の青年団による杉並木愛護活動始まる
1929	昭和 4年	東武鉄道日光線開通(杉並木街道横断)
1943	18年	戦時供木運動として造船資材のため杉並木伐採論起こる
1949	24年	今市地震のため例幣使街道明神の並木敷の一部地すべり移動あり
1950	25年	東照宮に「日光杉並木街道保存委員会」設置 (並木総本数17,378本)
1951	26年	国庫補助事業による杉並木根元保護石積工事実施(昭和34年終了)
1952	27年	3月29日「日光並木街道附並木寄進碑」特別史蹟に指定される
1954	29年	3月20日「日光杉並木街道附並木寄進碑」と名称が改められる 3月20日「日光杉並木街道附並木寄進碑」天然記念物に指定される
1956	31年	10月31日「日光杉並木街道附並木寄進碑」特別天然記念物に指定される

1961	36年	東照宮により「並木台帳」作成、杉並木に番号札の取付実施
1962	37年	東照宮により「日光杉並木街道」の名所、銘木等の案内板設置 国庫補助事業による「日光杉並木街道」の復旧工事開始
1964	39年	「太郎杉問題」起こる
1965	40年	「日光杉を守る会」発足
1973	48年	栃木県教育委員会が「文化財パトロール制度」を開設
1974	49年	栃木県に「日光杉並木街道保護対策連絡協議会」を設置
1975	50年	栃木県が国庫補助を得て並木敷隣接地の公有化を開始
1976	51年	宇都宮・日光間の日光バイパス開通
1977	52年	管理団体栃木県は「日光杉並木街道保存管理計画」を策定
1980	55年	今市市「杉並木マラソン大会」開始
1981	56年	大桑バイパス仮開通
1982	57年	昭和天皇行幸啓、杉並木ご視察 並木保険加入 今市市歴史民俗資料館（並木資料館）建設
1984	59年	並木事業保存会後継木植樹祭実施
1986	61年	建設省「リフレッシュマイロードモデル事業」に日光街道（野口～瀬川間）選出 建設省「日本の道百選」に日光杉並木街道選定される
1987	62年	栃木県「杉並木街道周辺景観づくりモデル事業関連計画」策定
1989	平成 1年	今市市「杉並木公園整備事業」に着手、上瀬川の杉並木公園着工
1990	2年	栃木県「日光杉並木街道保存管理計画」策定委員会設立
1992	4年	栃木県は新たな「日光杉並木街道保存管理計画」を策定 ギネスブック92年版に「世界一長い並木道」として登載
1994	6年	「日光杉並木街道保護基金」を設置し、ボランティア預金や一般寄附金の受入れを開始
1996	8年	10月4日 財団法人日光杉並木保護財団設立 全国育樹祭で全国に向けオーナー制度のPR開始（オーナー制度開始） 11月 並木杉契約第1号調印
1997	9年	栃木県「日光杉並木街道保護方策検討委員会」を設置
1998	10年	中空コンクリートブロック（ポカラ）工法による樹勢回復事業開始（瀬川地区） 財団法人日光杉並木保護財団主催「日光杉並木街道クリーン作戦」事業開始
1999	11年	12月「日光の社寺」が世界遺産登録される
2000	12年	「日光杉並木街道保護方策検討委員会報告書」提出 「日光杉並木樹勢回復事業計画策定委員会」を設置
2001	13年	「日光杉並木街道保護用地整備活用検討委員会」を設置
2002	14年	「日光杉並木樹勢回復事業計画」を策定
2003	15年	「日光杉並木街道保護用地整備構想」を策定
2006	18年	「日光杉並木樹勢回復事業第2期5ヶ年計画」を策定
2008	20年	「杉の並木守」事業の開始
2011	23年	「日光杉並木樹勢回復事業第3期5ヶ年計画」を策定
2013	25年	4月 財団法人日光杉並木保護財団が公益財団法人へ移行 板橋バイパス全線供用開始・大沢バイパス供用開始
2014	26年	「日光杉並木街道管理対策関係機関連絡会議」を設置
2016	28年	「第3次日光杉並木街道保存管理計画策定委員会」を設置
2017	29年	例幣使街道一部通行止め（明神～板橋区間） 「日光杉並木街道復元等検討会議」を設置
2018	30年	日光街道一部通行止め（七本桜～桜杉区間）
2019	令和 1年	「日光杉並木街道保存活用計画」を策定



編集発行／栃木県教育委員会

〒320-8501 栃木県宇都宮市埴田 1-1-20 栃木県教育委員会事務局文化財課  
TEL028-623-3460 FAX028-623-3426 <http://www.pref.tochigi.lg.jp/>